業　務　報　告　書

団体名	一般財団法人　北海道子どもの国協会

２	施設の効用を最大限に発揮させることについて

根拠法令
〔北海道公の施設に係る指定管理者の指定の手続等に関する条例第４条第２号〕
業務報告書の内容が、施設の効用を最大限に発揮させるものであること。

業務の基本方針について【共通】

北海道では、より多くの道民に、ゆとりとうるおいのある環境を提供し、公園を利用した多様な余暇の過ごし方を提案することにより、多様な広域レクレーション需要の充足を図るため北海道子どもの国を設置していました。
また、北海道教育委員会では、青少年の集団宿泊活動、自然体験活動その他の体験活動を支援することにより青少年の健全な育成を図るとともに、道民の生涯学習活動を促進するため道立青少年体験活動支援施設を設置していました。
この設置目的に沿った施設の管理運営を次のとおり行いました。

【共通】

当協会は、昭和51年に北海道子どもの国とネイパル砂川の一体的な管理運営を目的に設立以来、46年の豊富な経験と管理運営の方策を蓄積していました。これらを事業推進と運営管理に最大限に生かすとともに、関係法令の遵守を施設管理の最重要事項と捉え、「道民に愛される施設」として維持発展に努めました。また、両施設の設置目的を最大限に発揮させるため、一体的な管理運営と各種の事業を展開することにより、都市公園と社会教育施設が融合する施設の役目として、「自然に親しみ自然から生命の尊さを学ぶ」、「子どもと親が自然の中で一緒に遊び、楽しむ」、「親から離れ仲間と協力する活動から思いやりの心や自立心を育む」、「チャレンジする活動からたくましく生き抜く力を培う」等の効果を最大限に発揮できるよう努め、当協会の目的である「青少年の健康を増進し、かつ、その情操を豊かにするための施設を管理運営し、もって心身とも健やかな青少年の育成に寄与する。」ことの実現を目指しました。

1　子どもの国及びネイパル砂川の開設以来当協会が管理運営を担い、現指定管理期間においても当協会が一体管理することで、利用者が容易に両施設を共有利用でき、事業においても一体展開することで相乗効果を発揮し、施設の設置目的を達成して来ました。また、ネイパル砂川利用者の９割は、プログラムの中に子どもの国での活動を取り入れており、両施設の設置目的と相乗効果が顕著に現れていました。
　今後も当協会が一体管理することで、より一層、両施設の相乗効果を発揮し、利用者の満足度やサービスの向上と利用促進を図りました。

2　ネイパル砂川のめざす姿「心豊かにたくましく生きる子どもを育む」の実現を目指すとともに、学習指導要領が目指している子ども達に「生きる力」を育むことを目指しました。加えて北海道教育推進計画の施策項目の実施に当たり、関係機関や団体と連携し、地域の学習資源の活用を図るほか、多様なプログラムの開発に努めました。

3　北海道民の生涯学習振興のため、家庭、学校、地域等各分野の広範な教育、学習の場として施設を提供するとともに、社会教育主事と連携・協力し、ネイパル砂川の機能を最大限に発揮するよう努め、道民の生涯学習活動を促進しました。

4　平成18年度から組織する「北海道子どもの国・ネイパル砂川利用者協議会」を定期的に開催し、住民参加の施設づくりと地域住民との連携を進め、利用者の意見を反映することによって、より質の高いサービスの提供と施設の利用促進を図りました。

5　事業の推進に当たっては、まちづくりの方針、地域の産業、地域の特色のある企業や各種団体と協働するとともに、地域の河川や自然環境等の地理的な特質、歴史的文化を取り入れ、地域に密着した事業を展開し、道民に愛される施設を目指しました。

6　子育て支援、北海道家庭教育サポート制度、ガーデンアイランド北海道運動等、北海道・北海道教育委員会の施策方針による事業を推進し、子どもたちの未来に夢や希望が持てる、活力ある北海道の実現に協働しました。

7　子どもの国とネイパル砂川の設置以来、関係法令及び協会規程等の遵守を第一に捉えて管理運営に当たり、適切な施設管理・運営を実現してきました。次期指定管理期間においても引き続き同様に対応し、適切で万全な管理運営を継続しました。

8　子どもの国とネイパル砂川は、公の施設であるとともに青少年の健全育成の場であることから、「健康増進法」に定める受動喫煙防止のため、屋内施設は全面禁煙とし、屋外についても、道の定める「屋外喫煙防止条例」の規定を鑑み、喫煙を控えてもらうなど、児童及び非喫煙者の健康維持の徹底が図られるよう情報発信等に積極的に取り組みました。

【子どもの国】

1　子どもの国の使命を達成するために、緑豊かな環境を保全し道民にうるおいと憩いの場を提供するとともに子どもの国の修景維持に努め、法令又は指針に基づく施設、遊具の保守点検・巡回を適切に実施して利用者に安全で快適な利用環境を提供しました。また、子どもの国を利用した各種イベント等の開催と誘致を積極的に行い、ネイパル砂川との一体的利用に資するよう、利用の促進を図ることを基本方針として管理運営に当たりました。

2　宿根草花壇の整備をはじめとした住民参加型イベント及び野生小動物や昆虫等の観察会等の自然環境体験等の環境育成型イベントの充実を図り、広域公園として多くの道民が利用できるようなレクリエーションの場を提供しました。（ホタル観賞会は中止）

【支援施設】

1　学校や少年団、社会教育団体等を始め、各種団体が活動と寝食をともにする機会を通じ、健全な青少年の育成を図りました。

2　本道の子どもたちの多様な体験活動を支援するとともに 生涯学習振興の観点から 家庭学校、地域など各分野の広範な教育・学習の場や機会の提供に努めました。

3　プログラムの開発や主催事業の企画・運営、受け入れ団体への指導・助言等、社会教育主事と協働し、本施設の機能を最大限に発揮しました。

4　近隣市町の関係機関や団体等と連携・協力し、地域の特色を生かした魅力ある施設を目指しました。

5　子どもの国と一体管理による効率的な管理・運営を心掛けました。また、施設の状況を常に把握して事故の防止に努めるとともに、安全管理に万全を期した管理・運営を行いました。

利用者の増加を図るための特色ある取組について【共通】

これまでの公的な都市公園及び青少年教育施設にとらわれない特色や魅力ある施設づくりに向けて、R8年度までの目標とする延利用者数及び支援施設は宿泊室稼働率も合わせ、目標を達成するための実現可能な取り組みを行いました。

【参考：H30子どもの国延利用者数(人)】
1,353,455人

【参考：H30ネイパル延利用者数(人)】
砂川：51,212　深川：56,504　森：32,174　北見：22,932　足寄：38,525　厚岸：20,955

【参考：H30ネイパル宿泊室稼働率(%)】
砂川：55.9　深川：62.7　森：58.3　北見：50.7　足寄：56.5　厚岸：57.2

【共通】

子どもの国とネイパル砂川は、設置以来当協会が一体管理することによって、両施設の特性を存分に発揮させ相乗効果を生み出し、両施設の設置目的と利用者拡大を達成して来ました。

当協会の蓄積して来た知識と経験により、両施設の一体管理による相乗効果をより一層増大させ、両施設の設置目的と利用者拡大の達成を図りました。

1　地域に密着し、利用者ニーズに沿った事業を展開するため、地域の観光協会、生涯学習団体、施設利用団体等からなる「北海道子どもの国・ネイパル砂川利用者協議会」からの提言を受け、施設を最大限に有効活用し相乗効果を発揮するよう、一体的な魅力ある事業を推進しました。

2　地域のまちづくりの方針と連携した共催事業の取組を進めるとともに、地場産業や地域の特色を活用して魅力ある体験活動を展開しました。

3　冬季利用促進策と施設の有効活用策として、子どもの国とネイパル砂川において次のとおり事業を推進しました。

（1）ウィンターフェスティバルの開催（スノーラフティング、チューブすべり、歩くスキー、スノーシュートレッキング、雪遊び体験事業等）
（2）歩くスキー、スノーシューの貸出しとコース整備
（3）ネイパルキッズ広場の開催（幼稚園・保育園・家族を対象にしての雪遊びや、絵本の読み聞かせ、スノーラフティング、チューブすべり等）
（4）伝統文化や昔あそび等を体験する事業の開催（もちつき、しめ縄づくり、リース作り、キャンドル作り等）
（5）地域の特色ある企業・団体と連携しての事業実施（革細工作り、お菓子作り）

4　両施設一体管理等のメリットを次のとおり利用者に提供し、利用者拡大を図りました。

（1）キャンプ場とネイパル砂川の宿泊利用者に大型遊戯施設利用料金を割引し、利用者サービスと利用増を図りました。
（2）大型遊戯施設利用料金に回数券を設定し、キャンプ場とネイパル砂川での宿泊利用も期待できる個人利用者のリピート利用の促進を図りました。
（3）台風等荒天時におけるキャンプ場利用者の緊急避難施設として、ネイパル砂川を活用しました。
（4）ネイパル砂川の宿泊収容能力（200人）を超える大規模団体には、ネイパル砂川とキャンプ場を一体的に利用可能な宿泊施設としてＰＲするとともに、野外炊飯の大規模団体利用や繁忙期の利用者増に対応するため、両施設の野外炊飯場を一体的に利用することにより、利用者ニーズの対応と有効活用を図りました。
（5）子どもの国とネイパル砂川のそれぞれの利用者に対し、事業や利用の案内をし、利用者の施設利用を促進しました。

5　ホームページやＳＮＳ等インターネットを活用し施設案内や事業の情報、旬な話題を提供するとともに、リーフレット・ポスター等を一体的に作成するほか、テレビ、ラジオ、新聞等の報道機関やイベント・施設紹介等の雑誌には一体的な情報を提供し、ＰＲと利用の促進を図りました。

6　利用者の満足度とニーズを把握するため、独自の「利用者満足度調査」を実施し、要望等の対応状況を速やかにホームページで公表するとともに、利用者ニーズに沿った管理運営、事業実施に反映しました。

【子どもの国】

1　イベントの開催について

現在までに実施してきた事業を今後も継続しながらも内容の発展と充実を図り、さらに利用者ニーズに沿った新たな事業の開催や各種団体・組織等へイベントの誘致を積極的に行いました。特に、子どもの国内に設置されている砂川ハイウェイオアシス館とは今までよりもさらに連携を図り、イベントの共同開催、両施設の情報を相互に、または共同で発信するなど、集客に通じる様々な方策を可能な限り実施していきました。

※北海道子どもの国自主企画事業主催・共催事業計画（10・11頁）

2　大型遊戯施設の利用について

大型遊戯施設の利用期間及び時間並びに休みの日の設定に当たっては、「都市公園条例」及び「北海道子どもの国管理規則」の規定に基づき北海道の承認を得、次のとおりとし、利用促進の方策としました。

（1）条例で示す利用期間外であっても、今までの管理の経験を踏まえ、利用が可能な期間について開設しました。

（2）休みの日を条例で規定する毎週月曜日（月４～５回）ではなく月１回とし、利用可能日数を増やし利用拡大策としました。また、月１回の休みの日は遊具点検日とし、安全の確保に努めました。

3　他の道立公園との連携について

道内には、子どもの国の他に10カ所の道立公園がありました。近年、周遊観光という言葉を見聞きする機会が増え、観光庁もその取り組みを支援しております。道内各地にある道立公園を一緒にPRすること、さらには、各地を訪れ利用していただく、つまり道内の各公園を周遊していただくことを最大の目的として、各公園の利用料金を割り引く仕組みについて、北海道の協力を仰ぎ他の指定管理者と一緒に協議を行い、次期指定管理期間中において導入を目指しました。

◎管理の目標「３達成目標及び業績指標（１）利用促進」

達成目標及び業績指標		R4	R5	R6	R7（実績）	R8
公園利用者数の増員〔年間169千人以上〕	指標値	170,600人	172,300人	174,100人	175,800人	177,600人
	目標値	171,000人	(153,099)人	(176,768)人	(132,373)人	178,000人
有料施設入場者数の現状維持〔年間62千人以上〕	指標値	62,000人	62,000人	62,000人	62,000人	62,000人
	目標値	63,000人	63,000人	(72,371)人	(50,675)人	63,000人

		R4	R5	R6	R7（実績）	R8
延利用者数	参考値	1,353,455人	1,353,455人	1,353,455人	1,353,455人	1,353,455人
1,353,455人	目標値	1,353,500人	1,353,500人	1,353,500人	(917,615)人	1,353,500人

※延べ利用者数には公園内にある他社が管理運営する公園施設ハイウェイオアシス館の利用者（年間100万人以上）も含まれております。

◎管理の目標「４参考業績指標（１）利用促進」

達成目標及び業績指標		R4	R5	R6	R7（実績）	R8
公園の利促進のための自主企画事業〔年間開催事業数18事業以上	指標値	18事業	18事業	18事業	18事業	18事業
	目標値	18事業	18事業	18事業	(20) 事業	18事業

【支援施設】

1　北海道教育推進計画に基づき、いじめや不登校の問題、生活習慣の乱れは体力、運動能力の低下や学習能力の低下につながる、それらに伴い北海道の子どもたちを巡る新たな教育課題に対応する施設として、生活習慣や運動能力等の改善を図るため実りある体験活動の取組に努めました。

2　地域の人々と連携した社会体験活動やボランティア活動、農作業や家畜の世話等の農業体験、木や森とのふれあいを通して豊かな心を育む木育の取組等、地域の環境問題や自然の大切さを学ぶための参加・体験型の学習機会を提供する等、関係団体等との連携を図った環境教育の取組に努めました。

3　青少年が野外活動や自然体験活動を通じて、幼児や高齢者等との世代間のふれあいを深め、豊かな情操や社会性を培う機会を提供する等、事業の充実を図りました。

4　家庭は教育の出発点であることから、家庭において子どもが「基本的な生活習慣」を身に付け、自立心を育み、心身の調和のとれた発達が図られるよう、家庭教育に関する学習だけではなく、自然を通して家族で体験できる機会を提供し、家庭の教育力の向上に努めました。

5　地域のサークルの活動情報や社会教育施設等に関する情報等、利用者が必要とする情報を広く収集し提供することに加え、地域との連携を促進しながら、ネイパル砂川の機能の充実を図りました。

6　ネイパル砂川では自然体験活動プログラムに加え、幼児や高齢者、障がいのある方等、全ての人が等しく平等に楽しめる体験活動として、オリンピックやパラリンピックで話題となったスポーツの活動を推進し、健康の維持や増進、運動能力向上を図りました。

7　主催事業等の計画・執行に当たっては、常に地域の中にあるネイパル砂川を意識し、まちづくりの事業方針や地域の産業、地域の特色ある企業・団体・住民と連携・協力関係を保ちながら、砂川ならではの特色と魅力のあるプログラムを採り入れ主催事業等を促進しました。また、リピーター等による宿泊利用者の確保、子どもたちの参加・活動意欲を増進する主催事業の開発等に取組、利用者ニーズに沿った体験活動施設を図りました。

8　ネイパル砂川で体験可能なプログラムの広報及び、閑散期の利用者の増加、地域住民との協働事業の促進を図るためアウトリーチ事業を推進しました。「ネイパル砂川アウトリーチ事業（職員の講師派遣）に関する事業」

9　地域で開催されるイベント等に参加し、ネイパル砂川のプログラム体験コーナーを設け、地域住民へのＰＲとして、クラフト作り等の実践を通して、ネイパル砂川の普及・利用増進を図りました。

◎目標数値

達成目標及び業績指標		R4	R5	R6	R7(実績)	R8
延利用者数	指標値	51,212人	51,212人	51,212人	51,212人	51,212人
	目標値	51,300人	51,300人	51,300人	(21,183)人	51,300人

◎管理の目標「３達成目標及び業績指標（１）利用促進」

達成目標及び業績指標		R4	R5	R6	R7(実績)	R8
年間部屋稼働率	指標値	60%	60%	60%	60%	60%
	目標値	60%	60%	60%	45.04%	60%